

♪ 2017年度

poco a poco

♪

Nr. 2 2017年4月20日(木) 文責: プファイル・辰巳

復活祭も終わり・・・

新学期早々、今年は復活祭の連休がやってきてしまいましたが、みなさんはこの休日を有意義に過ごせましたか？

着任式、始業式、入学式・・・と式が続き、学級開きの話し合いや身体測定と、慌ただしい1週間の後で、きっとよい骨休めになったのではないのでしょうか？

さて、学校では今日から平常授業です。音楽の授業も始まります。みなさんの元気な歌声が音楽室に響くのを楽しみにしています。4月にしては寒い日が続いていますが、毎日、ぐんぐん日が長くなってきています。学校生活のリズムに慣れて、元気に1学期を過ごしたいものです。



音楽こぼれ話 <テレマン 没後250周年>

聖金曜日の休日のことです。Bad Homburg (フランクフルトの隣町) のある教会で受難曲の演奏会があるというので、出かけてみました。お城のすぐ横にある Erlöserkirche です。立派な外装と輝くような美しい内装をもち、建築物としても一見の価値があります。また、ここの合唱団も地元では有名です。

当日券で入れるということだったので、開演30分前には着くように家を出ました。ところが、教会前広場に到着して、びっくり仰天。広場に数百人と思われる大行列がすでにできていたのです。慌てて列の最後尾に付くと、列はゆっくり動き出しました。でも、私の後からもどんどん人が押し寄せています。(みんな入れるのかなあ。)と不安に思っていると、周りの人たちも(すごいね)と口々に言っています。その間にも、別の入り口から前売り券を手にした人がどんどん入場していて、ますます不安になりました。

待つこと25分。やっと当日券売り場で順番が回ってきて、無事チケットを入手、会堂に入りました。私は1階端っこの席でしたが、2階席まで満員でし

た。教会の演奏会で、こんなに満員になった演奏会は初めてでした。

ところで、受難曲というと「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」などバッハの作品がポピュラーですが、その日の演目はゲオルグ・フィリップ・テレマンの「ブロックス受難曲」という珍しい演目でした。(そういえば今年はテレマンの没後250周年だったなあ。)と思い出したのは、演奏が始まってからでした。

G. F. テレマンはバッハと同時代のドイツの作曲家です。マグデブルクという町で生まれ(1681年)、当時の作曲としては大変長生きをして、1767年にハンブルクで亡くなりました。その長い生涯のうち、1712年から1721年までの9年間、テレマンはフランクフルト市の音楽監督としてこの町に住んでいたこともあります。その後ハンザ都市ハンブルクに招聘され、亡くなるまでの40年余りをそこで過ごしました。

バッハの厳格な教会音楽よりも、テレマンの作品は親しみやすく、当時はバッハよりもテレマンの方が音楽家として人気が高かったようです。

さて、そんなテレマンの受難曲でしたが、これはなかなかの大曲で、最後の晩餐の場面から、ゲッセマネの園の祈りやピラトの裁判、十字架刑の死に至るまで8場面、約2時間の演奏でした。

ソリスト、合唱団、室内オーケストラの演奏のすばらしさもさることながら、今回一番感心したのは、聴衆のマナーのよさでした。2時間休憩なし、しかも受難曲という重い内容の音楽を最後まで集中して聴くのは、なかなか大変なものです。これを満員御礼の500人以上と思われる人々が、やってのけたのです。演奏家の側だけでなく、聴衆の側にも緊張感があって初めてすばらしい演奏会になるというお手本のようなコンサートでした。

聖金曜日の演奏会ということで、演奏直後の拍手は見送り、2~3分の黙想の時間もありました。テレマン音楽の余韻を静まり返った教会堂の中で堪能したひと時でした。

ほんのちょっとだけ 演奏会情報

5月14日(日) 17時から

Bad Homburg Erlöserkirche にて

合唱コンサート: モンテヴェルディの作品

チケット問い合わせ: Tourist Info Bad Homburg

5月19日(金) 20時から

フランクフルト・ドームにて ブルックナーのミサ曲 ほか

チケット問い合わせ: 069 1340 400

